LC推進員会　発表要旨

「STFの状況」　早野仁司

STF加速器を利用した高輝度X線生成実験（量子ビーム実験）は2013年3月末にビーム運転を終了し、その後ビームを使用しないレーザー共振器のデータ取得を行い、実験そのものは2013年4月19日で完全に終了した。

次の計画であるSTF Phase-2では、ILC型のクライオモジュールを組立、設置、試験、ビーム加速を行なっていく。そのクライオモジュールはいままでのクライオモジュールの２倍の長さのため、現在の搬入口からは搬入できないので、空洞連結はいままでどおり４台ずつ地上部クリーンルームで連結するが、８台への連結と真空容器挿入を局所クリーンルームと新たな挿入治具を用いて地下トンネル内で行う計画である。これと並行して、ILC型の電子ビームをフォトカソード電子銃から出力する試験を行なっていく。このため、STF加速器の運転エネルギーを75MeVから7.5MeVまで下げる変更申請を行っている最中である。また、トンネル下流部の機器取り外しと組立場所確保のための整理も完了した。これから、クライオモジュール組立が開始される予定である。